

## 【知事臨時記者会見】 11月18日

### 11月補正予算額(一般会計)129億円

知事／11月補正の予算額 129億円のうち、コロナ対策分が 81億円、8月豪雨災害対策分が 44.4億円、通常補正分が 3.6億円。予算額は 6,225億円になり、昨年の 6,284.1億円に次ぐ、過去 2番目の大きな規模になった。

#### <コロナ対策分について>

### 医療提供体制の強化 64.4億円

第6波を想定し、入院患者がピーク時の 1.5倍程度に対応できるよう、病床数を 545床まで確保すべく予算化した。当初予算は 97.7億円だったので、増床する部分の空床補償分の予算を確保した。財源は、包括支援交付金。

### その他コロナ対策の主なもの

#### ・生活福祉資金貸付事業費補助 7.0億円

一時的に生計の維持が困難になった人に貸し付ける原資。例えば、少額で 20万円や生活再建までに必要な費用 60万円を最大 3回まで貸し付けるなど。財源は、全額国費。

#### ・新型コロナウイルス感染症対策事業費 5.7億円

医療機関が空気清浄機や生体情報モニターなどを整備するために必要な予算。財源は、包括支援交付金。

#### ・新型コロナウイルス感染症行政検査事業費。PCR検査に係る経費など。

#### <8月豪雨災害対策分>

10月補正までに 148億円を予算化。11月補正で 44.4億円、予算総額は 192.4億円。令和元年度の佐賀豪雨の際は、103.7億円だったので、約 2倍の災害対策費になった。44.4億円のうち、36.7億円は災害対応の公共事業。それ以外の部分の説明をする。

### コミュニティ再生支援事業 5,600万円

豪雨災害によって被災した公民館や伝統芸能の道具の修理、防災マップの作成などコミュニティ維持のための支援。令和元年の佐賀豪雨の際に初めて導入し、これまでにない支援策だと評判がよかった。県に対するふるさと納税の寄付金 1,700万円と一般財源を足して支援する。

### 内水対策・プロジェクト IF

気候変動型の豪雨災害が、全国で頻発している。来年起きた場合、浸水被害を最小限にするため、準備が整ったものから着手する。

#### ・人命等を守る・・・カメラでいち早く災害を認知し、住民の避難、農業機械の移動につな

げる。

・内水を貯める・・・上流の田んぼダムで水を維持できるようにする。あらかじめ、一定の水を河川に流しておいて、ため池やダム・クリークに貯められるようにしておく。

・内水を流す・・・県で 5 台の排水ポンプ車を導入する契約をした。排水機場の機能の向上、河川の浚渫など、順次行っていく。

#### 排水ポンプ車(9月補正)の整備に続き、対策を実施します 6,800万円(債務負担行為: 8.2億円)

・内水監視カメラの設置

佐賀県独特の内水の被害に対し、市町と連携しながら取り組む。

・ため池の調節ゲートの整備

切り欠きというゲートを作り、放流することで約 40センチの水位低下が可能になる。従来、農業用水として使用しているため池だから、地元の皆さんのご理解を得て、大雨が予想される場合に了解を得ながら行うことになる。

・河川の浚渫

県が管理する河川の底にたまっている土砂を掘り返し、川の流れをよくする事業。

6,800万円は、国費を入れ実施する事業。さらに、債務負担行為として 8.2億円を予算設定している。

#### その他 8月豪雨災害対策の主なもの

市町の被災者に対し、県の災害救助基金特別会計から、住宅の応急修理や避難所の運営などに対して交付する。当初予算が 0.5億円、今回の 7.5億円を上乗せし 8億円を交付する。この 8億円を国と県で 4億ずつ負担する。予算上は、佐賀県災害救助基金特別会計への繰出金 4億円、国庫負担金 4億円、住宅の応急修理、避難所運営など 7.5億円。

そのほか、住居などに被害を受けた方への貸付などで豪雨災害対策の予算が構成されている。

#### <通常分 3.6億円>

・法人事業税の一部を市町に交付 3.2億円

法人事業税が増収になった場合、市町に法人事業税の 7.7%を支出すると決まっている。

・佐賀県高性能食肉センターの整備 0.7億円

・OPEN-AIR 佐賀 北山キャンプ場の整備 0.2億円

・コロナの影響によるインバウンド対策の取りやめ △0.7億円

・その他 0.2億円

#### さまざまな人が利用しやすい空港へ 債務負担行為 3.5 億円

有料駐車場を新設する予算。現在、駐車場は第 1 から第 4 まであるが、満車になることがあり、料金を払ってでも近くに停めたいというニーズがある。100 台程度を 1 日 1,000 円程度で検討している。

ほかに、ターミナルビル前の歩道部分にルーフを設置し、誰もが使いやすい空港へ改良するため、債務負担行為で 3.5 億円を設定した。

#### SSP 構想の推進に向けた競技施設の整備 債務負担行為 9,800 万円

国スポ・全障スポは、20 市町すべてが競技会場になっている。上限額 1 億円で市町の施設整備に補助を行っている。吉野ヶ里町文化体育館、唐津市の野球場は完成した。芦刈文化体育館に 9,800 万円補助する。200 万円はすでに補助済み。

#### 佐賀県高性能食肉センターの整備 7,200 万円

多久市の「KAKEHASHI(かけはし)」（仮称）の整備。衛生的に高性能な処理施設を作って、佐賀牛の輸出を増やすための整備。来年の秋、オープンできる見込み。

事故畜棟の新設、汚水処理施設の整備、豚処理施設への整備に順次取り組んでいる。今回の予算は、事故畜棟の新設、汚水処理施設の整備に着手するための予算と継続費の補正。事業内容が固まったところから予算化していく。

牛の産婦人科のブリーディングステーション、牛の保育園のキャトルステーション、この食肉センターの 3 施設を整備し、生産額の拡大を図っていきたい。